

ビジネス フォーカス

【ビジネスマッチング】

【日韓関係を考える】

ンらが日韓ビジネスの事例研究などを発表する。経済交流の成果や、今後解決していくべく課題なども報告される。

活発な議論が展開される中で、ある出席者が「日韓関係は良いのか、悪いのか？」と質問した。それに対して全く異なった回答がなされたのが興味深かった。要約すると、一つは「日韓関係はいつも悪い。過去、実際には良い時は一度もなかった」というもの。もう一つは「日韓関係はちっとも悪くはない。実際、過去から現在まで何の問題も起きていない」というものであった。

恐らく、双方とも正しい認識であろう。ただ、これは「ある特定の立場において」という条件付きで言えることである。

政治的に見れば、「日韓関係は継続して悪い」といえるよう。歴史問題、領土問題ともに、過去から現在に至るまで解決されないまま、両国間の課題として残されている。

その一方、産業界で協力・供給関係にある企業は、それぞれパートナーとして事業を継続しており「日韓関係は問題ない」となる。

現在の日韓関係をめぐる論調には、一面的で、特定部分を切り取って語られるものが多い。限定された情報やイメージがマスメディアを通じて広まる。これが現実を見えなくさせ、ビジネスチャンスを失っているケースが多いのではないかと。

重工業、電機・電気・電子、化学・素材など、いわゆる「ものづくり」分野で、日韓関係はおおむね良好だった。日本の電子部品なしに韓国のスマホは製造できず、韓国の大手セットメーカーへ多くの日系部品・部材メーカーが製品を納入している。こうした関係に政治問題は大きく影響しない。

一方、これまで交流の少なかった小売りや飲食などサービス業界の関係者や、韓国をよく知らない企業人が、現在の日韓関

係について抱く印象は、ネットやマスメディアを通じた情報に支配される。「なぜ今韓国に？」「東南アジアが最初だろう」という意見を持つてしまう。

しかし、日本とほぼ同等の経済力がある人口が、5千万いる国というのは世界でそうはない。そうした国が隣国であるという幸運も、簡単に得られるものではない。途上国向けに製品をカスタマイズしないで済むのも大きなメリットだ。

本来なら多面的なものである二国間関係が、一面的に捉えられがちなのは、日韓関係に限らない。日中関係も同様である。ネットやメディアなどを通じた情報は目に付きやすいし、どうしても印象に残ってしまう。自分の目で見て、感じるのがビジネスチャンスをつかむ王道である、あらためて感じさせられた日韓経済人会議だった。

(矢野経済研究所 インダストリアルテクノロジージュニット

理事研究員 稲垣 佐知也)

韓国・ソウルで5月13、14両日に第47回日韓経済人会議が開催された。1969年から始まったこの会議は、両国の経済界を代表する企業・団体のトップが一堂に会す。時宜に合ったテーマについて専門家を交えて活発な意見交換・交流を行い、共同声明を採択して両国政府に提言している。日本と韓国で毎年交互に開催される。両国の政治関係が困難な時期にも開催されており、産業界のつながりの深さがうかがわれる。

会議では研究者、ビジネスマ